

## 超高齢社会における損保業界の役割とは ～「高齢者タスクフォース報告書」を取りまとめ～

- ▶ 昨年12月、超高齢社会において損保業界が果たすべき役割等について有識者からご意見をいただくため、協会長が、「お客さまの声・有識者諮問会議（協会長の諮問機関）」の場で、「超高齢社会における損保事業者を取り巻く諸課題の分析」について諮問を行いました。
- ▶ それを受け本年5月、有識者からなる「高齢者タスクフォース」が設置され、今般報告書が整理されました。
- ▶ 損保協会では、第7次中期基本計画（2015～2017年度）の重点課題として、「新たな環境変化に対応することによる『安心・安全な社会づくり』への貢献」を掲げ、その施策の1つとして、「超高齢社会への取組み」について検討することとしています。
- ▶ 損保協会および会員各社は、各種取組みを進めていくにあたって、本報告書を道しるべとし、今後ますます進行する超高齢社会の中にあっても、本業やサービス等を通じて社会に貢献し、信頼される業界であることを目指してまいります。

### 報告書の概要

以下の3つの観点から、現状の把握と想定しうる将来像の認識の共有を行った。

#### ○社会保障制度と民間保険の役割

#### ○超高齢社会における地域包括ケアシステムの構築

#### ○老年者との取引における諸問題と現行制度が抱える課題

このうえで、今後の超高齢社会に向けた対応のポイントについて、以下の3つのキーワードに集約して整理するとともに、「損保業界への期待」として取りまとめた。

#### 1. 基本は在宅、必要に応じて時に施設 という高齢者ケア

⇒損保業界に対し、損保本業を通じた商品・付帯サービス等の更なる充実を図ることや他業態への進出時にも牽引者としての役割を担うことを期待する。

#### 2. 自助・互助・共助・公助の組み合わせ（役割分担と連携）

⇒損保業界に対し、業界関係者（損保各社・損保代理店・OB等）が自身の専門性（リスク啓発・防災等）を活かしつつ、コーディネーター人材等として地域社会に積極参加することや地域の高齢者等が気軽に集える“場”や企画の提供を検討することを期待する。

#### 3. 自立と自立支援、保護と監督の線引きとバランス

⇒損保業界に対し、高齢者に対する各種手続きの検討・拡充（成年後見制度に関する課題の中長期的な検討を含む）をはじめ、時代の変化や要請を踏まえつつ、本業等を通じて安心かつ安全な地域社会の形成に寄与することを期待する。

※損保協会ホームページ ([http://www.sonpo.or.jp/about/action/shimon\\_kaigi/index.html](http://www.sonpo.or.jp/about/action/shimon_kaigi/index.html)) に報告書の全文を掲載〔「第8回お客さまの声・有識者諮問会議議事録」の下にPDFで掲載〕。

（参考）高齢者タスクフォースメンバー（敬称略・五十音順・役職等は2015年5月時点）

リーダー 丹野 美絵子（独立行政法人国民生活センター理事）

メンバー 金子 和夫（順天堂大学医学部整形外科学教室教授）

古 笛 恵子（弁護士：コブエ法律事務所）

田 中 滋（慶應義塾大学名誉教授）

中 村 秀一（医療介護福祉政策研究フォーラム理事長）

以上